

私たちは、岡山県北で元気を創造している人を応援しています。

プチホテルゆばらリゾート × インタビュアー【シリウスグループ】
オーナー 古林 伸美 × イコール株式会社 代表 池田 誠



奇跡の湯 奥津温泉ホテル

米屋倶楽部 奥津

TEL:0868-52-0016 <http://www.komeyaclub-okutsu.jp>



人にあてにされ
て頼られてこそ
リーダーにな
れる

どのようなお子さんでしたが？

結構なガキ大将でした。妻とは幼なじみなのですが、将来の嫁さんになるとも知らずにいじめていたらしいです。山遊びも好きでしたが、やまめを捕る目的でよく川に潜っていましたね。当時ははんざき(オオサンショウウオ)がうじゃうじゃいて、自分の頭より大きいはんざきに遭遇して食われるんじゃないかと思いました。民話に出てくる10m以上のはんざきもまんざら嘘ではないと思っただけです。湯原温泉の中心部で育ったもので蛇口をひねればお湯は出てるものと信じていて、親戚の家泊まりに行った時など、お湯を使い切って叱られたりしました

ね。
高校時代はどうでしたか？

学校を出たら、帰って来て宿屋を継ぐという考えがあったからかも知れませんが、昔から競争するという意識がなかったんですよ。昔の旅館の「若旦那」は濁点付きの若旦那で、魚に骨を知らず、力二に甲羅を知らずと言われていたくらいなんです。私が最後の馬鹿旦那のクラスなんです(笑)。
私以降はそんな人間はいないはずです。

高校は今でいう倉敷高校へ進学しました。高校年の時は 椎間板ヘルニアで入院してほとんど出席できませんでしたね。
飯進級でなんとか2年になれましたけどテストで悪ければまた戻されるということで、さすがに尻に火がついてこの時ばかりは勉強を頑張りました。

本を読むのは好きだったので入院中、毎日2〜3冊いろんなジャンルの本を読んでいたのが良かったのかテストというテストはほぼ満点で、学年の2位になりました。
競争という意識はなかったんですが、上位になるということはやっぱり嬉しかったです。

高校時代は寮生活だったんです

よね。

73 人寮に入っていたんですが、みごとにみんな悪いヤツばかりで悪の巢のような寮でした。



でも、当時私の兄が警察署に勤めていて、白バイでお弁当を届けてくれたりしていたので、私は一目置かれた存在でした。中古のバイクの大きいのを買って乗り回していたから、影番長とか呼ばれてね(笑)。

73人の寮生のうち、ほとんどが退学や中退して、卒業できたのは私一人だけでしたよ。要領が良かったのかな笑)。

大学時代はどうでしたか？

日本大学農獣医学部へ進学したんですが、学校へ行った記憶はほとんどないんですよ。今は500名くらいのビックバンドになっていますが、モダンジャズの羅刹(ラセツ)っていうバンドの創始者は私なんです。楽器はできないんですけどパーカッションで参加してました。人をのせるのがうまくって楽しんでちゃっていたらメンバーがどんどん増えていったね。会場やらなんやかんやの段取りは自分がしてましたよ。

卒業してすぐに宿屋を継がれたんですか？

卒業してから少しの間は東京にいたんですが、「父倒れる」というよくある話に騙されたというか・・・心配して帰ってきたら元気だったんですね。まあ実際少し体調が良くなかったからまんざら嘘ではないんですが。もともと競争力というものに疎かったんで、親の言いなりに板場の修行に行き、日本舞踊の稽古などしましたよ。当時の若旦那はそんな感じでしたね。

当時の湯原温泉と古林さんの活動について教えてください。

温泉旅館に来るのは団体の宴会のお客さんばかりで、芸者が120人いました。それはそれで楽しい町だったんですが、当時の観光白書によると、行きたい旅行は恋人や家族との旅行で、実際行った旅行は社員旅行や部落の旅行でギャップがあると感じていました。今後は自分の行きたい旅行にシフトしていくだろうから、それに対応する温泉町にしていけないといずれは取り残されると思いました。帰

競争心とかライバル心は全くないけど、獨創性に対してはこだわりを持っています



プチホテルゆばらリゾート
 オーナー 古林 伸美
 プロフィール
 1953年生まれ。旧真庭郡湯原町出身。日本大学農獣医学部卒業後、両親の首む三好野旅館に入社。旅館組合理事長や観光協会会長などを経て、現在は湯原町旅館組合と湯原町観光協会の顧問。また温泉指面役の顔である。

ってきてなるべく早い時期に青年部にそれを伝えました。当時は大きな旅館がメインで、そこのお客が溢れたら小さな旅館に回すというやり方でした。大手の旅館はそれなりの魅力がありますが、小さな旅館にも小さいなりにできる事があると思ったんです。人件費などの経費がかからない分、料理を豪華にするとか、目が行き届くサービスを徹底するとか・・・。旅館組合や観光協会の役員に立候補しようと思いました。でもいきなり立候補しても実績がないといけないから、人にあてにされるように頑張りました。鞆持ちでも何でもして下積みはちゃんとやっておきました。そうしていると次第にあてにされて頼られてくるんです。

そのくらいになると発言力が強まってくるんで「理事で出させて下さい！」って自分から立候補しました。当時はお金で旅行雑誌を「ネットオール出来なかったんですが、マップルという旅行雑誌の編集者に会いに行って「全て情報は網羅します。記事は作ります。写真も撮ります。ですからページ数を増やして下さい。どんな小さな旅館もせめて名前と電話番号だけでも載るようにして下さい」というお願いをしに行きました。話しが通って雑誌に掲載されると町の様子が変わってきました。小さな旅館に直接お客さんから電話が入ってくるんです。それまではなかった

事なんです。そうなると小さな旅館の連中もやる気になってきて、町づくりに対する意欲が高まってきました。露天風呂の日とか温泉指南役だとかいろいろイベントを町をあげてやるようになりましたね。あとはパソコンが世に出回り出した頃、これは使えるんじゃないかと目をつけ、税務署の方にいろいろ教えてもらいつつ、飯を食う間も惜しかったんで一升瓶とコップだけ置いて四六時中まさに24時間部屋に閉じこもって旅館の会計システムを組み上げました。それを無償で提供しましたよ。私は人のまねごとはいらないんです。競争心とかはないんだけど獨創性に対してはこだわりを持っていきます。

湯原温泉の今後のビジョンについて

岡山県には観光のイメージがありません。ましてや温泉のイメージもないと感じています。岡山県北は観光で楽しめる場所で、リゾート地ですよ、という事をアピールして行く事が大切ですね。日本でも有数の泉質や湯量なので、温泉ファンにがんがん売っていくべきです。さらに、温泉地というものは宿泊基地であり観光基地なんですよね。湯原温泉を起点にしてどう動くか、翌日どこへ行くかなど観光情報を宿屋が全部把握して、いろんな提案ができればいけないと思っ

ています。これからの宿には予約段階からコンシェルジュする事が求められるのではないのでしょうか。